



ちんどん屋の響き

音が生み出す空間と社会的つながり

阿部 万里江／著 輪島 裕介／訳
世界思想社 2023.3 6,279p 21cm
674.8/ネ 33 2023.6.16 受入
定価 3,500 円＋税

目次

推薦の辞——林幸治郎／大熊ワタル
日本語版への謝辞——阿部万里江

プロローグ 始まり
序章 ちんどん屋の響き
第1章 歩く歴史
第2章 魅惑を上演する
第3章 想像共感の音を出す
第4章 ちんどん屋を政治化する
第5章 沈黙の響き
エピローグ 響きのアフオーダンス

付録

注
解説 響け、ちんどん世界——細川周平
訳者あとがき
参考文献
事項索引／人名索引

図書館員のつばやき

読みやすそうな表紙ですが、がっつり
学術書。原書もこの表紙だったよう。
ちんどん屋って cool! なのかも。

内容紹介

本書は 2018 年に英語の学術本として出版された原作の日本語訳である。エスノミュージコロジスト（民族音楽学者）でボストン大学音楽学科教授である著者は、アコーディオン奏者として様々なジャンルのバンドとレコーディングやツアー活動もしている。

著者は長年にわたり、フィールドワークとして大阪のチンドン通信社などに同行した。本書では、そこから著者が得たものなどから、ちんどん屋の音が響く都市空間においていかなる社会的結合と断絶が生起しているのか、ということが考察される。

第 1～3 章では、職業的なちんどん屋実践者について、第 4 章では著者が呼ぶところの「ちんどんに触発された」ミュージシャンを、第 5 章ではサウンド・デモや脱原発運動など、チンドン屋の政治化に関する具体的な事例を取り上げる。「初のちんどん屋研究書」とあるように、ちんどん屋の今を知ることができる一冊。

関連書籍

『チンドン屋! 幸治郎』

林 幸治郎／著 新宿書房 2006.1

『笑う門にはチンドン屋』

安達 ひでや／著 石風社 2005.2

『チンドンひとすじ 70 年』

菊乃家 べ丸／語り 栗原 達男／写真
岩波書店 2002.11

『チンドン屋：日本の大道芸』

[CD] キングレコード P2001



牧の景観考古学 古墳時代初期馬匹生産とその周辺

諫早 直人／編 六一書房 2023.1 4,379p 31cm
210.32/+ネ 31 2023.5.19 受入 定価 10,000 円＋税

【群馬県関係記事】

p.221-236
上毛野地域における馬の登場—富岡市後賀中割遺跡 7 号古墳の調査成果から—／右島和夫

ウマ 豆知識

- ◇ 群馬県内で出土した馬形埴輪は 450 例以上で、動物埴輪全体の 90% 以上
- ◇ 馬形埴輪のしっぽは、ぴんと立っている（切りそろえて束ねられた形）
- ◇ 群馬県の馬の枝肉生産量は全国 14 位（令和 3 年畜産物流通統計より）

内容紹介

榛名山は 5 世紀末～6 世紀にかけて、2 度大規模な噴火があった。その結果、榛名山の東南から北東麓の広大な地域が、火山噴出物によって完全に埋没。そこから、馬小屋と推定される建物や馬の足跡が残る広大なエリアが発見された。古墳時代の馬飼育・生産のリアルな「場」がそのままバックされているという。

本書では、この発掘調査の成果に対して、榛名山東方よりも古くさかのぼるであろう牧のあった西日本や、日本列島に家畜馬をもたらした朝鮮半島をはじめとするユーラシア大陸の馬飼育・生産と何が同じで、何が違うのかについて、解明を試みている。

埋葬された馬の全身骨格が発見され、日本最古の牧「河内の牧」があったと目される大阪府四條畷市とその周辺に注目し、古代の馬研究会のメンバーの共同研究の成果をまとめ、古代の「牧」とその周辺の景観をよみがえらせようとする一冊。

図書館員のつばやき

何百年も前の馬の足跡、馬と人がいた古代の景色、ロマンが広がります。

関連書籍

『馬の考古学』

右島 和夫／監修 青柳 泰介／編集
雄山閣 2019.11

『海を渡って来た馬文化—黒井峯遺跡と群れる馬— 企画展第 93 回』

群馬県立歴史博物館 2017.9

『馬と古代社会』

佐々木 虔一／編 川尻 秋生／編
八木書店出版部 2021.5



本紙は、県立図書館が新たに収集した資料をご紹介します。県立図書館は、小説や実用書などの一般的な資料よりも、専門的な資料や通常の出版物ルートに乗らない郷土資料など、特定の利用者層や限定的なニーズを満たすような資料を収集する役割を担っています。“ニツチ”＝“すき間”というタイトルにその意図を込めてみました。

【群馬県立図書館】 〒371-0017 前橋市日吉町一丁目 9-1 電話：027-231-3008

